

◆ 川野里子 選

満月にはだか光らせ露天風呂までを歩めり壁
画のごとく (横浜市) 富尾 大地

「終わらん」洗濯終えたはずなのにボツリ
と夫が言う戦争を (尾張旭市) 疇地 久美
水を配る隊員の顔を配られる人が団扇であお
ぐ被災地 (日立市) 加藤 宙

「避難所」と呼べば異常に気が付くかエアコ
ンのない「体育館」に (柏市) 伊藤 智紗
☆大の字になって寝ている君がいて結婚て面白
いものと知る (富山市) 松田 梨子

風鈴にスマホと車休ませて人を恋うとは 俺
が寝れねえ (筑後市) 近藤 史紀
数Ⅲのページを繰ればきらめきぬ夏の素数の
流星群が (青森市) 野村 雅子

本好きの意地を感じる絶やすまいと本屋のあ
とに本屋ができて (東京都) 白河 清
全員が同じ方向見る怖さ向日葵畑にたじろい
でいる (佐伯市) 川西 敦子

アスファルト敷く人は皆ふくらんだジャケッ
ト着つつ少し溶けてゐる(和歌山市)植田 陽子

【評】一首目、古代ギリシャの壁画のような自分の裸体を思う。二首目、日常会
話に紛れ込む終わらない戦争。三首目、支援する人、される人の絆だ。六首目、車
とスマホを休ませても恋心は休めない。七首目、流星群を素数と見たセンスが光る。

◆ 佐佐木幸綱 選

アイドルを照らししライト片付ける黒衣の女
性黙々として (高松市) 中村 将人

石塀の継ぎ目はあみだくじのごと当たり目指
してカナヘビ登る (つくば市) 石上徳千代
イメージは蛙のような平泳ぎ土踏まずまで足
使い蹴る (千葉市) 鈴木 一成

桜田門倶楽部に私もいたような気になる重信
房子の日記 (千葉市) 高橋 好美
☆小田原へ来てから買った自転車が錆びる意外
と海に近く (小田原市) 中村 玲子

原稿の持ち方マイクの直し方それぞれにアナ
ウンスの大会 (可児市) 前川 泰信
冷麺にしようと言われ作る過程が
熱くて暑い (金沢市) 竹内 一二

漁師町見おろす丘は夕映えて砲弾形の碑を今
も置く (静岡市) 木村 徳幸
子3人大学出して家買って父の遺産はそんた
けと母 (土浦市) 原田 啓子

居酒屋の大手ばかりが生き残り昭和の酒場の
消える寂しさ (三郷市) 木村 義熙

【評】第一首、アイドルの歌謡ショウが終わっての舞台裏に取材した珍しい一首。
たんと表現した下句に注目。第二首、石塀をのぼるカナヘビ。遊びどころに満ち
た視線に注目する。第三首、平泳ぎの練習をしている場面。「土踏まずまで」がうまい。